

2025年3月23日

主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒469番（旧28番曲）（MK姉）

『功なきわれを』

聖書⇒イザヤ書11章1～5, 9～10編（MM姉、MY姉）

『エッサイの株からひとつの芽が萌えいで／

その根からひとつの若枝が育ち

その上に主の霊がとどまる。

知恵と識別の霊／

思慮と勇気の霊／

主を知り、畏れ敬う霊。

彼は主を畏れ敬う霊に満たされる。

目に見えるところによって裁きを行わず／

耳にするところによって弁護することはない。

弱い人のために正当な裁きを行い／

この地の貧しい人を公平に弁護する。

その口の鞭をもって地を打ち／

唇の勢いをもって逆らう者を死に至らせる。

正義をその腰の帯とし／

真実をその身に帯びる。

わたしの聖なる山においては／

何ものも害を加えず、滅ぼすこともない。

水が海を覆っているように／

大地は主を知る知識で満たされる。

その日が来れば／

エッサイの根は／

すべての民の旗印として立てられ／

国々はそれを求めて集う。

そのとどまるところは栄光に輝く。』

讃美歌⇒96 番
『エサいの根より』

聖書⇒詩編 88 編 2~4 節 (ES 姉)
『主よ、わたしを救ってくださる神よ／
昼は、助けを求めて叫び／
夜も、御前におります。
わたしの祈りが御もとに届きますように。
わたしの声に耳を傾けてください。
わたしの魂は苦難を味わい尽くし／
命は陰府にのぞんでいます。』

聖書⇒詩編 105 編 1~6 節
『主に感謝をささげて御名を呼べ。
諸国の民に御業を示せ。
主に向かって歌い、ほめ歌をうたい／
驚くべき御業をことごとく歌え。
聖なる御名を誇りとせよ。
主を求める人よ、心に喜びを抱き
主を、主の御力を尋ね求め／
常に御顔を求めよ。
主の成し遂げられた驚くべき御業と奇跡を／
主の口から出る裁きを心に留めよ。
主の僕アブラハムの子孫よ／
ヤコブの子ら、主に選ばれた人々よ。』

聖書⇒ガラテヤの信徒への手紙 3 章 29 節
『あなたがたは、もしキリストのものだとするなら、
とりもなおさず、アブラハムの子孫であり、約束による相続人です。』

(祈)

聖書⇒ローマの信徒への手紙 8 章 31b~32 節 (SK 兄)
『もし神がわたしたちの味方であるならば、だれがわたしたちに敵対できますか。わたしたちすべてのために、
その御子をさえ惜しまず死に渡された方は、御子と一緒にすべてのものをわたしたちに賜らないはずがありま

しょうか。』

聖書⇒詩編 119 編 105 節

『あなたの御言葉は、わたしの道の光／わたしの歩みを照らす灯。』

聖書⇒テモテへの手紙二 3 章 15~16 節

『また、自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いに導く知恵を、あなたに与えることができます。聖書はすべて神の霊の導きの下に書かれ、人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益です。』

(祈)

礼拝讃美歌⇒241 番

『主の御稜威を』

《パン裂き》

聖書⇒ヨハネによる福音書 6 章 48~58 節 (KH 兄)

『わたしは命のパンである。あなたたちの先祖は荒野でマンナを食べたが、死んでしまった。しかし、これは、天から降って来たパンであり、これを食べる者は死なない。わたしは、天から降って来た生きたパンである。このパンを食べるならば、その人は永遠に生きる。わたしが与えるパンとは、世を生かすためのわたしの肉のことである。』それで、ユダヤ人たちは、「どうしてこの人は自分の肉を我々に食べさせることができるのか」と、互いに激しく議論し始めた。イエスは言われた。「はっきり言っておく。人の子の肉を食べ、その血を飲まなければ、あなたたちの内に命はない。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠の命を得、わたしはその人を終わりの日に復活させる。わたしの肉はまことの食べ物、わたしの血はまことの飲み物だからである。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、いつもわたしの内におり、わたしもまたいつもその人の内にいる。生きておられる父がわたしをお遣わしになり、またわたしが父によって生きるように、わたしを食べる者もわたしによって生きる。これは天から降って来たパンである。先祖が食べたのに死んでしまったようなものとは違う。このパンを食べる者は永遠に生きる。』

(式)

礼拝讃美歌⇒142 番 (旧 58 番)

『渡されたもう』

《建徳》

聖書⇒マタイによる福音書 23 章 1~12 節 (NH 兄)

『それから、イエスは群衆と弟子たちにお話しになった。「律法学者たちやファリサイ派の人々は、モーセの座に着いている。だから、彼らが言うことは、すべて行い、また守りなさい。しかし、彼らの行いは、見倣ってはならない。言うだけで、実行しないからである。彼らは背負いきれない重荷をまとめ、人の肩に載せるが、自分ではそれを動かすために、指一本貸そうともしない。そのすることは、すべて人に見せるためである。聖句の入った小箱を大きくしたり、衣服の房を長くしたりする。宴会では上座、会堂では上席に座ることを好み、また、広場で挨拶されたり、『先生』と呼ばれたりすることを好む。だが、あなたがたは『先生』と呼ばれてはならない。あなたがたの師は一人だけで、あとは皆兄弟なのだ。また、地上の者を『父』と呼んではならない。あなたがたの父は天の父おひとりだけだ。『教師』と呼ばれてもいいけない。あなたがたの教師はキリスト一人だけである。あなたがたのうちでいちばん偉い人は、仕える者になりなさい。だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。』

聖書⇒マタイによる福音書 11 章 28 節

『疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。』

礼拝讃美歌⇒354 番 (旧 58 番曲) (NH 兄)

『主よ終わりまで』

《建徳要旨》